



シャーロック・ホームズで語られなかった未知の宝石の正体
「青いガーネットの秘密」

Secret of The Blue Carbuncle

奥山 康子 著

誠文堂新光社発行 四六判236頁

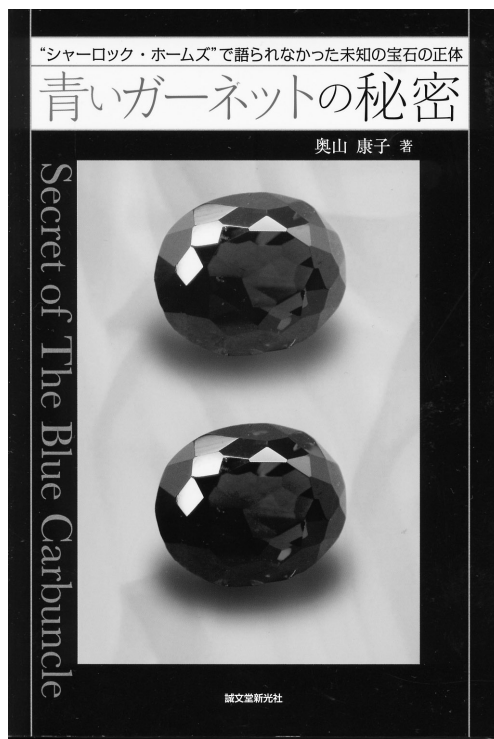
2007年11月28日発行 定価1,800円(税別)

ISBN978-4-416-80758-3

プロローグは、クリスマスの朝にシャーロック・ホームズが「Blue Carbuncle」、邦訳「青いガーネット」を手にするところから始まる。ホームズを読んでいない読者にも「青いガーネット」の物語が手短かに紹介されているので心配無用である。ホームズは事件を解決するが、物語の中心となった「青いガーネット」の正体は語られず仕舞いで、著者の中で長年心に引っかかったものとなっていた。本書ではこの長年の謎を追いつながりながら、ガーネットを軸に鉱物の構造にはじまり、ダイナミックな地球の営みまでが語られていく。

本文に先立って読者の目にまず飛び込んでくるのは、実は豊富な写真である。表紙をめくると7ページにわたり、「これぞガーネット」と表された赤くそして美しく輝くガーネットのカットストーンおよび原石が紹介されている。さらに本文の合間にも8ページずつ3カ所に、様々な色のガーネットや他の宝石およびその原石、ときには露頭や顕微鏡写真も紹介されている。全部で130枚を越える写真のうち、カットストーンは60枚ほどであるが、その多くに「大森標本」の文字が添えられている。「大森標本」は故・大森江いさん・貞子さんによって地質標本館に寄贈されたコレクションであるが、大森江いさん・貞子さんと知己であり、地質標本館の研究者でもある著者の「大森宝石コレクション」に対する熱い思いがそれらの写真に込められている。大変見応えのあるミニ写真集となっている。

本文は広く一般向けに大変丁寧に書かれているという印象を強く受けた。第一章では鉱物が色を呈する仕組みが多くページを割いて説明されており、「青いガーネット」の青の素を探す。第二章では「大森宝石コレクション」の華である赤いガーネットたちを取り上げて、ガーネットと変成岩の関係、さらにはプレートとの関係へと物語は広がりを見せる。第三章では、様々な色のガーネットが取り上げられ、その発見から



命名、現在に至るまでの変遷を含め、丁寧に紹介されている。第四章は少々異色だ。この章ではガーネットが主役ではなくガーネットを追う研究者達の地道な努力と熱い探究心が主役となっている。途中には高校生が活躍するエピソードも紹介されている。それら研究者たちのひたむきな活動を通して、鉱物がもつ情報から地球の本当の姿が見いだされていく過程が思いを込めて描かれている。そして最後の「ちょっと長めのエピローグ」では、ついに著者が「青いガーネット」と結論づけたい鉱物が明かされる。

私は日頃高校生に地学を教える身であるが、正直なところ現在私が担当している高校生たちには本書は少々難解であると感じた。しかし私が本書から得た知識と感銘を咀嚼して生徒に受け渡すことはできる。また本書を教室で回して、美しい写真たちを見せることにより、生徒に鉱物への、ひいては地球科学への関心を喚起することができるであろう。つまり私としては、まずは教員へ本書を薦めたいと思う。さらには地球科学や教育学を学ぶ学生たちに、そして鉱物とホームズのファンの人々へ薦めたいと思う。

萩島智子(目白学園中学・高等学校)